

## いじめのない学校を目指して

### 関川中学校で いじめに立ち向かおう プロジェクト全校集会



いじめのない学校を生徒自身の手で作ろうと、1月30日、関川中学校で「いじめに立ち向かおうプロジェクト全校集会」が行われました。集会には、関川中学校の全校生徒のほか、関川小学校の6年生児童も参加。また、地域住民の代表者がアドバイザーを務めました。

集会では「友達との接し方」をテーマに生徒会が製作した自主映画の上映や、学級ごとにいじめの解決方法などを発表。3年1組の生徒たちは「学校でいじめを起こしたくない。このプロジェクトは先輩方から受け継いだバトンなので、しっかりと取り組みたい。学校の雰囲気づくりを大切に、いじめのない学校にしてほしい」と後輩たちに呼びかけました。

アドバイザーからは「どんな道に進んでも、人を想う優しい気持ちをもって、これからも頑張ってもらいたい」とエールが送られ、また、生徒会副会長の大島清楓さん（2年・上野新）は「いじめは加害者、被害者だけでなく周りにいる人たちの問題でもあるので、全校生徒みんながいじめをなくしたい」といじめ根絶を願っていました。



## 和田ミエさん（下関）に 自治功労（高齢者）表彰

このたび、村のほう賞条例に基づき、自治功労表彰が行われ、和田ミエさんに表彰状と記念品料が贈られました。

このたび満100歳の誕生日を迎えられた和田さんは、大正3年2月10日生まれ。現在は関川愛広苑に入所していますが、昨年の夏まで家族と自宅で生活し、身のまわりのことなど自分で出来ることは自分で行ってきました。また、畑の草取りも行うほど足腰が強く、丈夫な体の持ち主。

元気の秘訣を尋ねると「出来る範囲のことは自分でしてきました。1日3食しっかり食べるし、好き嫌いはありません。パンでもご飯でも何でも食べます」と教えてくれました。笑った顔がとても印象的な和田さん。愛広苑では他の利用者と楽しく過ごしています。

表彰おめでとございました。



## 照井次夫さん（深沢） 県の指導農業士に認定

このたび、照井次夫さんが県知事から指導農業士に認定されました。

指導農業士とは、先進的な農業経営を実践し、農村青少年の育成に指導的役割を果たしている農業者のこと。照井さんは、約16haの水田で稲作経営に取り組み、地域農業の貴重な担い手として精力的に農業経営を展開しています。

指導農業士に認定された照井さんは「地主の皆さまはじめ諸先輩、地域の方々のおかげです。皆さまに恩返しができるようにこれからも従業員ともども、地域農業の発展に努めていきたい」と話していました。

今後は、指導農業士として農業後継者の育成や農業教育への支援のほか、地産地消運動の推進など消費者への農業アピール活動に取り組んでいかれることを期待します。



風に揺らめく無数の灯り  
闇夜に現れた別世界に感動

～七ヶ谷冬の陣 雪ほたる～

冬の恒例イベント「七ヶ谷冬の陣 雪ほたる」が2月16日、安角ふれあい自然の家を会場に行われ、村内外から大勢の見物客が訪れました。主催はタランペクラブ。(加藤克徳代表・鮎谷)

グラウンド内に置かれた1000個以上の雪灯ろうに灯がともされると、目の前に現れたのは見事な雪ほたるの世界。見物客からは「きれい」「すごい」の声が聞かれました。また、ソチ五輪開催中ということもあって、見事な五輪マークも登場。風に揺らめく灯りが見物客を感動で包みました。

村上市から来た相馬善蔵さんは「初めて来ました。とてもきれいで感動しています。雪灯ろうの灯りがほのぼのとして心が和みます。皆さんの団結力は本当に素晴らしいと思いました」と無数の雪ほたるに感動していました。

巨大どもんこに  
会場にぎわう!

第9回 おおいし・どもんこ祭り

2月8日、大石ダム湖畔県民休養地を会場に「第9回おおいし・どもんこ祭り」が開催され、巨大どもんこを楽しもうと大勢の家族連れなどで賑わいました。主催は大石・山と川に親しむ会。(高橋八男会長・大石)

まつりには、関東・関西から国際ボランティア学生協会IVUSAの学生50人も参加。前日の準備から参加し、当日は冬のミニ運動会を開催するなどまつりを盛り上げました。リーダーを務めた長崎美奈さん(立命館大学・4年)は「どもんこまつりは今年で3回目です。毎回、大石集落の皆さんが温かく迎えてくれるのがすごく嬉しい。ゆっくり話せるのが楽しくて仕方ない。今年で卒業ですが、また帰ってきたい」と笑顔がこぼれていました。



2月14日、村民会館大ホールを会場に、大規模土砂災害に備えた合同防災訓練が行われ、国・県・村の担当者のほか、見学者として各集落の区長など約80人が参加しました。主催は北陸地方整備局飯豊山系砂防事務所。

訓練は、大地震に伴い、女川地区や上川口地区内で発生した大規模土砂災害を想定したもので、進行役がシナリオに沿って参加者に質問を投げかけ、各機関から回答を求める形で進められました。地震発生後の初動対応や河道閉塞、

大規模災害を想定して  
合同訓練を実施

国・県・村の担当者が参加



地滑りが発生した場合の対応について各機関から発表され、連携などについて確認。土砂災害の危険箇所が約60か所ある当村からは「土砂災害現場の近隣集落だけでなく、危険箇所を抱える地区にもいち早く情報を流し対応したい」などの発表がされました。

また、見学を行った蛇喰集落の山口茂敏区長は「災害が発生した時は、安全な場所にいち早く避難することが大切。そのためにも必要な情報を早め知らせてもらえれば」と話していました。